

JENESYS2017 招へいプログラム第11陣の記録 (対象国:インド第2陣, テーマ:(文化)日本語コミュニケーション・日本文化交流)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、インドより大学生19名が2017年11月28日～12月5日の日程で来日し、「日本語コミュニケーション・日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、「日本語コミュニケーション・日本文化交流」のテーマの下、日本理解講義で日本の歴史、文化、経済など幅広く学びました。奈良県では、県庁表敬訪問、東大寺視察、また伝統工芸品作りや座禅を体験し、奈良の歴史と文化体験を通じて日本文化を知る機会を得ました。

また、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン(活動計画)についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

インド 19名

【訪問地】

東京都、奈良県

2. 日程

- 11月28日(火) 来日
【オリエンテーション】
- 11月29日(水) 【日本理解講義／基調講演】
【最先端技術視察】日本科学未来館
【商業施設訪問】お台場
- 11月30日(木) 都内から奈良県へ移動
【学校交流】近畿大学
- 12月1日(金) 【地方自治体表敬訪問】奈良県庁
【文化体験】組み紐ストラップ体験
【歴史的建造物等視察】東大寺
【ホームステイ対面式】
- 12月2日(土) 【ホームステイ】
【文化体験】座禅体験
- 12月3日(日) 【ホームステイ歓送会】

【ワークショップ】
 12月4日(月) 地方から都内へ移動
 【報告会】
 12月5日(火) 【文化体験】秋葉原
 離日

3. プログラム記録写真



11/29 【日本理解講義／基調講演】



11/30 【学校交流】近畿大学



12/1 【地方自治体表敬訪問】奈良県庁



12/1 【文化体験】組み紐ストラップ体験



12/2 【文化体験】座禅体験



12/3 【ホームステイ歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ インド 学生

日本経済の基調講演や奈良県での講義は講師の大変深い見識と興味深い内容で日本の経済、諸問題、日本とインドのこれからの関係の発展が労働人口の不足を改善する一助となることを学びました。近畿大学のキャンパスツアーでは、教育体制、学部や学外活動などの違いを知ることが出来ました。ホームステイの経験は最も忘れられない思い出です。私たちは書物やインターネットから情報を得ることはできますが、実際に日本人と生活を共にすることはとても学び多い体験でした。玄関での靴の置き方や何を食べているかなど、どんな小さなことも新しい発見の機会となりました。また、ホストファミリーの友人に会ったり、日本家庭料理を食べたり、インドと日本の生活様式の違いを共有することができました。

◆ インド 学生

日本の経済、貿易、外交政策を深く学び、これからの産業や分野を知ることができました。奈良県庁の講義では、奈良県の文化遺産、歴史、地形を学びました。奈良県には豊かな文化、世界遺産、人々が存在し、常に価値ある遺産を保存する努力を惜しみません。学校交流では、学内で使用されている技術、学生に提供されている施設、進行中の研究、学生の士気を高めるためのアイデアなどにとっても感心しました。ホームステイではホストファミリーの温かいおもてなしのおかげで、大変居心地が良く、日本の伝統的な食べ物やカードゲーム、折り紙など様々なことを教えてもらいました。とても素晴らしい機会を与えて下さり感謝しています。

◆ インド 学生

私は、日本人の生活を身近に体験することが出来ました。奈良県庁では、奈良県のことや観光について学びました。彼らがどのように環境を守っているのか、また、インフラが整っているか知ることができました。ホームステイでは、日本人はとても謙虚で、思いやりのある人々であることがわかりました。日本の文化と漢字も習いました！東大寺では、インドと日本の繋がりと日本の文化について知ることが出来ました。日本の交通規則はとても整備されていることに気づきました。また、基調講義で先生が話していた通り、日本人はチームワークが良いということを実際に見ることができました。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

ディスカッションの準備は繰り返していたのですが、いざ会うと、どのように話を切り出せば良いか分からず戸惑いました。しかし、一度話始めるとお互いに話したいことを自然と話すことができました。特に印象的だったことは、インドの東西南北で文化が全く異なるということです。

◆ ホストファミリー

インドでの日常の生活、親子の関係、家族の生活習慣、地域の文化など、インドのことをたくさん聞けて、大変勉強になりました。日本への留学を希望しているので、実現してくれると良いと思います。

6. 参加者の対外発信

	
<p>日本のお寺についての発信 (What' s app) 今朝、古い仏教のお寺を参拝した。日本人の自分たちの伝統を守ろうとする姿に感心した。日本人はインドから仏教は来たと言っていた。インドでは歴史の繋がりを失いつつあると感じた。</p>	<p>近畿大学についての発信 (Facebook) 近畿大学での素晴らしい一日。 大阪での学生とのかけがえのない交流</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p style="text-align: center;">ACTION PLAN</p> <ul style="list-style-type: none"> > Sharing of photos, videos and details about various experience > Sharing of knowledge gained > Motivating people to learn Japanese > Helping old people with internet and technology > Encouraging Indo-Japanese cross cultural, educational and work-related activities > Encouraging students to pursue education and work at Japan > Introducing youth to anime, pop culture, manga, etc. for developing interest in Japanese > Exploring various Japanese cultural activities apart from learning the language > Focus on Kaizen > Share the inspiration from E-Cube of Kindai University to implement similar innovative methods of Japanese learning
<p>アクション・プランの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の経験を写真やビデオで共有する ・ 得た知識の共有 ・ 日本語を学ぶ意欲を高める ・ インターネットや技術を使い、高齢者の手助けを行う ・ 文化、教育、ビジネスを通じた日本とインドの交流を促進する ・ 学生に日本で就学や就労を薦める ・ 若者にアニメ、漫画、ポップカルチャーなどの日本文化を伝える ・ 日本文化とは別に様々な日本文化活動を探求 ・ 「改善」に重点をおく ・ 日本語を学ぶ方法として近大のEキューブ（英語村）のような方法を広める